

四島のかけ橋

第72号
2023年1月1日
(日曜日)

発行所
北方領土返還要求運動
神奈川県会議
〒231-8588 横浜市中区日本大通1
TEL 045-285-0905
発行人 綾井 祐一



北方四島交流等事業に使用する船舶「えとぴりか」



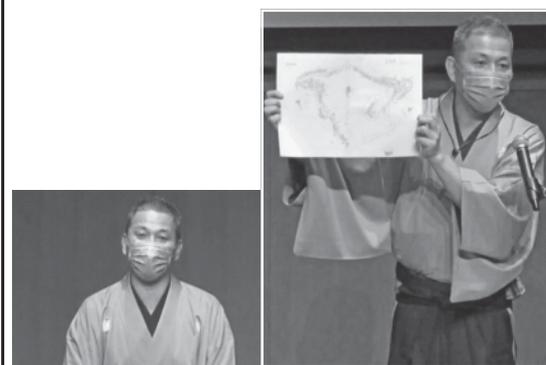
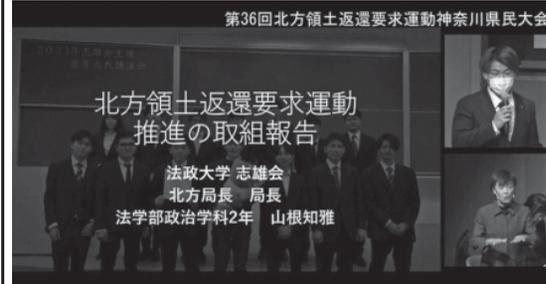
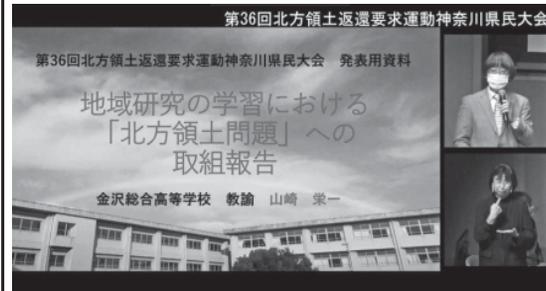
会長挨拶



副知事挨拶



諸星理事長挨拶



二〇二二年十一月十日(木、横浜市中区)の「横浜情報文化センター」情文ホールにおいて、第三十六回北方領土返還要求運動神奈川県大会を開催した。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から中止されていたため、三年ぶり、YouTube同時中継のハイブリッド方式での開催となった。

会員をはじめ一七十三名が参加した今大会(YouTube同時中継視聴者を含む)は、二〇〇〇名近くでは、主催者のしきだ会長の「戦後七十七年を経た今なおロシアの不法占拠状態が続いている。領土問題の解決は、国の外交交渉が基本だが、それを下支えする運動の輪を広げ、一日も早い返還を実現したい」との挨拶の後、来賓の小板橋聡士神奈川県副知事及び独立行政法人北方領土問題対策協会の諸星衛理事長から、当県民会議の活動への敬意と今後の運動への激励があつた。

小板橋副知事からは、ロシアが四島交流などに関する合意について効力停止を発表したこと等を踏まえて、「日露関係が厳しい中、あつても元島民の方々に寄り添い、県民総ぐるみで返還要求の取組を続けていくことが必要だ」と、諸星理事長からは、「厳しい状況だが、一喜一憂することなく腰を据えて返還運動に取り組むことが必要」との言葉をいただいた。

山崎栄一氏(神奈川県立金沢総合高等学校教諭)から、同校での「地域研究・フロンティア学習」における北方領土問題への取組について、報告があった。「地域研究・フロンティア学習」は、二年次の研修旅行に向けた事前事後学習であり、そのうちの一つに北方領土問題がフィールドとして設定されている。生徒たちは、一年次から事前学習を開始し、二年次では、当県民会議・神奈川県北方領土問題教育者会議のほか、東道根室会へのインタビュー、北海道根室高等学校北方領土根室研究会とのオンライン交流を行うなど、関係団体と北方領土問題への学習に取り組み、来年六月に北方領土隣

接地域への研修旅行を行う予定。学習のなかで生徒たちからは、「北方領土を返還してもらいために、私たちが興味を持つことが本当に大切なんだと分かった」、「北方領土に関しては、今を生きる自分たちが考えていくことが大切だ」と思った。など、各自が同問題に対し、関心を持つことの大切さを実感したという声が多く挙がったとのことであった。

次に、山根知雅氏(法政大学公認政治経済サークル志雄会北方局長)が、同会における、北方領土返還要求運動推進の取組報告を行った。同会は、二〇〇五年、北方領土問題に関心がある学生によって設立され、現在、北方領土問題を



舞島、色丹島、国後島、根室島が並び、北方四島は、歴史的にも国際法上も、疑う余地のない我が国の固有の領土であり、一日も早い返還の実現は、全国民共通の切望である。

第36回県民大会を開催 会場は横浜情報文化センター YouTube同時配信



県民大会の様子

三遊亭金八氏
プロフィール
一九七〇年北海道根室市生まれ。
一九九〇年四月四日三遊亭金馬に入門、住み込み弟子として修行。
一九九〇年五月前座となり楽屋入り、上野鈴木演芸場で初高座。
一九九三年十一月二ツ目昇進。
二〇〇二年三月真打昇進。

進。
北海道根室市出身で北方領土元島民二世(父が蘭舞群島志発島・相泊)ということから「北方領土寄席」として、北方領土を題材にした「北方領土落語」や「北方領土南京玉すだれ」など社会的なものもネタとして取り入れ活動。北海道をはじめ、全国で



北方領土関連のイベント・講演会で北方領土に関する落語た講演も行う。北方領土返還要求運動全国大会では司会も務める。

推進するという大会宣言が提案され、満場一致で採択された。
現在、YouTube登録チャンネルにおいてアーカイブを公開中なので、是非、下記URL又は二次元コードからアクセスいただき、御覧いただきたい。
<https://www.youtube.com/watch?v=4waleulMys>



灯台

私は、一九四四年に満州国で生まれ、三歳の時に日本に帰国したとき母から聞かされてきた。満州国での思い出は全くなく、戦後間もなく幼少期を世田谷区で過ごした子供の頃の昭和時代が、何故か近頃、懐かしく思うようになった。その頃の生活は、食料が乏しく毎日麦飯を食べていたが、子供なので特に寂しい想いはなかった。家の近くの世田谷区立京西小学校に入学し、楽しい学校生活を送った。教室にはダルマストーブがあり、石炭で暖をとった小学生時代であった。

その後、中学、高校、大学に進学したが、学生生活の中では、「日本の近代史」を学んだ記憶がなく、あまり興味を持っていない。興味を持っていたのは、社会人となり、北方領土返還要求運動神奈川県民会議を立ち上げた際、当時、神奈川県知事であった長洲二様から、民際外交等の講演をいただいた際のことであった。「国家間

の交渉である「国際外交」に対して、民衆同士、地域同士の国境を越えた交流」であり、当県民会議の基本スタンスの一つともなっている。その代表として挙げられるのが、私もかつて参加した、日本国民と北方四島在住のロシア人が相互交流を行う、北方四島交流等事業である。同事業は、まさに「民衆同士、地域同士の国境を越えた交流」であり、民際外交そのものであるが、現在、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、具体的な展望が見通せない状況のため、大変残念ながら全ての事業が見送りと

なっている。こうしている中、元島民の「島に上陸することは無理でも、できるだけ近くで島に眠る物故者を慰霊したい」との声に応えるため、公益社団法人千島舞踊諸島居住者連盟と北海道が、北方四島交流等事業使用船舶「えとぴりか」による洋上慰霊が、二九名の方々が参加し、七月二十三日(土)八月十日(水)の隔日で行う実施された。北対協(独立行政法人北方領土問題対策協会)によれば、「えと

ぴりか」は、昨年、病室の拡充や船内換気の強化など感染症対策工事が行われたところだが、根室への回航が、今回、三年ぶりとなることから、洋上慰霊等の事業が安全・安心に実施できるよう、北対協主催で試験航行が七月十四日(木)十五日(金)に実施された。試験航行には、内閣府や実施団体等の事業関係者二十六名が参加し、食事や宿泊等の船内生活を通じて感染症対策の安全性や実用性を様々な視点から確認し、感染者発生時の対応をイメージして実施された。また、交流事業や北方領土問題に対する理解を深めてもらうため、九月四日(日)に根室港で「えとぴりか」の一般公開が開催された。停泊中の船内に見学の順路を設け、客室や食堂、デッキなどを紹介し、北方領土問題に関する啓発パネルが設置され、道内外から多くの方々が来場された。令和五年度以降の北方四島交流事業については、北対協にて、現時点において、事業の実施について具体的な展望が見通せない状況が続いている

が、ウクライナ情勢の変化を見極めながら、実施団体間の連携を図り、内閣府や外務省との協議を通じて、対応していくとされている。北方領土返還要求運動は、日本の主権を堂々と主張し、要求し続けることが求められることに変わりはないが、その道には険しい道が多く、粘り強く運動を続けていきたいと思います。特に、若い世代への普及啓発が一番大事だと思うので、県民会議、神奈川県北方領土問題

は、昨年、病室の拡充や船内換気の強化など感染症対策工事が行われたところだが、根室への回航が、今回、三年ぶりとなることから、洋上慰霊等の事業が安全・安心に実施できるよう、北対協主催で試験航行が七月十四日(木)十五日(金)に実施された。試験航行には、内閣府や実施団体等の事業関係者二十六名が参加し、食事や宿泊等の船内生活を通じて感染症対策の安全性や実用性を様々な視点から確認し、感染者発生時の対応をイメージして実施された。また、交流事業や北方領土問題に対する理解を深めてもらうため、九月四日(日)に根室港で「えとぴりか」の一般公開が開催された。停泊中の船内に見学の順路を設け、客室や食堂、デッキなどを紹介し、北方領土問題に関する啓発パネルが設置され、道内外から多くの方々が来場された。令和五年度以降の北方四島交流事業については、北対協にて、現時点において、事業の実施について具体的な展望が見通せない状況が続いている

張し、要求し続けることが求められることに変わりはないが、その道には険しい道が多く、粘り強く運動を続けていきたいと思います。特に、若い世代への普及啓発が一番大事だと思うので、県民会議、神奈川県北方領土問題

は、昨年、病室の拡充や船内換気の強化など感染症対策工事が行われたところだが、根室への回航が、今回、三年ぶりとなることから、洋上慰霊等の事業が安全・安心に実施できるよう、北対協主催で試験航行が七月十四日(木)十五日(金)に実施された。試験航行には、内閣府や実施団体等の事業関係者二十六名が参加し、食事や宿泊等の船内生活を通じて感染症対策の安全性や実用性を様々な視点から確認し、感染者発生時の対応をイメージして実施された。また、交流事業や北方領土問題に対する理解を深めてもらうため、九月四日(日)に根室港で「えとぴりか」の一般公開が開催された。停泊中の船内に見学の順路を設け、客室や食堂、デッキなどを紹介し、北方領土問題に関する啓発パネルが設置され、道内外から多くの方々が来場された。令和五年度以降の北方四島交流事業については、北対協にて、現時点において、事業の実施について具体的な展望が見通せない状況が続いている

の交渉である「国際外交」に対して、民衆同士、地域同士の国境を越えた交流」であり、当県民会議の基本スタンスの一つともなっている。その代表として挙げられるのが、私もかつて参加した、日本国民と北方四島在住のロシア人が相互交流を行う、北方四島交流等事業である。同事業は、まさに「民衆同士、地域同士の国境を越えた交流」であり、民際外交そのものであるが、現在、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、具体的な展望が見通せない状況のため、大変残念ながら全ての事業が見送りと

なっている。こうしている中、元島民の「島に上陸することは無理でも、できるだけ近くで島に眠る物故者を慰霊したい」との声に応えるため、公益社団法人千島舞踊諸島居住者連盟と北海道が、北方四島交流等事業使用船舶「えとぴりか」による洋上慰霊が、二九名の方々が参加し、七月二十三日(土)八月十日(水)の隔日で行う実施された。北対協(独立行政法人北方領土問題対策協会)によれば、「えと

ぴりか」は、昨年、病室の拡充や船内換気の強化など感染症対策工事が行われたところだが、根室への回航が、今回、三年ぶりとなることから、洋上慰霊等の事業が安全・安心に実施できるよう、北対協主催で試験航行が七月十四日(木)十五日(金)に実施された。試験航行には、内閣府や実施団体等の事業関係者二十六名が参加し、食事や宿泊等の船内生活を通じて感染症対策の安全性や実用性を様々な視点から確認し、感染者発生時の対応をイメージして実施された。また、交流事業や北方領土問題に対する理解を深めてもらうため、九月四日(日)に根室港で「えとぴりか」の一般公開が開催された。停泊中の船内に見学の順路を設け、客室や食堂、デッキなどを紹介し、北方領土問題に関する啓発パネルが設置され、道内外から多くの方々が来場された。令和五年度以降の北方四島交流事業については、北対協にて、現時点において、事業の実施について具体的な展望が見通せない状況が続いている

が、ウクライナ情勢の変化を見極めながら、実施団体間の連携を図り、内閣府や外務省との協議を通じて、対応していくとされている。北方領土返還要求運動は、日本の主権を堂々と主張し、要求し続けることが求められることに変わりはないが、その道には険しい道が多く、粘り強く運動を続けていきたいと思います。特に、若い世代への普及啓発が一番大事だと思うので、県民会議、神奈川県北方領土問題

は、昨年、病室の拡充や船内換気の強化など感染症対策工事が行われたところだが、根室への回航が、今回、三年ぶりとなることから、洋上慰霊等の事業が安全・安心に実施できるよう、北対協主催で試験航行が七月十四日(木)十五日(金)に実施された。試験航行には、内閣府や実施団体等の事業関係者二十六名が参加し、食事や宿泊等の船内生活を通じて感染症対策の安全性や実用性を様々な視点から確認し、感染者発生時の対応をイメージして実施された。また、交流事業や北方領土問題に対する理解を深めてもらうため、九月四日(日)に根室港で「えとぴりか」の一般公開が開催された。停泊中の船内に見学の順路を設け、客室や食堂、デッキなどを紹介し、北方領土問題に関する啓発パネルが設置され、道内外から多くの方々が来場された。令和五年度以降の北方四島交流事業については、北対協にて、現時点において、事業の実施について具体的な展望が見通せない状況が続いている

張し、要求し続けることが求められることに変わりはないが、その道には険しい道が多く、粘り強く運動を続けていきたいと思います。特に、若い世代への普及啓発が一番大事だと思うので、県民会議、神奈川県北方領土問題

は、昨年、病室の拡充や船内換気の強化など感染症対策工事が行われたところだが、根室への回航が、今回、三年ぶりとなることから、洋上慰霊等の事業が安全・安心に実施できるよう、北対協主催で試験航行が七月十四日(木)十五日(金)に実施された。試験航行には、内閣府や実施団体等の事業関係者二十六名が参加し、食事や宿泊等の船内生活を通じて感染症対策の安全性や実用性を様々な視点から確認し、感染者発生時の対応をイメージして実施された。また、交流事業や北方領土問題に対する理解を深めてもらうため、九月四日(日)に根室港で「えとぴりか」の一般公開が開催された。停泊中の船内に見学の順路を設け、客室や食堂、デッキなどを紹介し、北方領土問題に関する啓発パネルが設置され、道内外から多くの方々が来場された。令和五年度以降の北方四島交流事業については、北対協にて、現時点において、事業の実施について具体的な展望が見通せない状況が続いている

の危機感が伝えられた。一方、神奈川の中高校生からは、ロシアのウクライナ侵略が返還交渉に与える影響等について発言があったほか、「私たちの世代が問題の理解を深め、伝えていく役割を果たさなければならぬ」と感じた」との声も挙がった。

最後に、県民会議の萩原事務局長から「返還要求運動は、平和運動であり、返還後も日露両国民が共存する」との発言があった。

二月七日(火)は「北方領土の日」
一八五五年の二月七日(旧暦では安政元年十二月二十

一日、伊豆の下田において日露通好条約が調印された。この条約で日露両国の国境が平和裏に定められ、北方四島が日本の領土として初めて国際的に明確になった。

そうした経緯を踏まえて、北方領土問題に対する国民の関心と理解をさらに深め、全国的な北方領土返還運動の一層の推進を図るため、一九八一年一月六日の閣議了解

により、二月七日が「北方領土の日」として定められた。本年も二月七日(火)に、「北方領土返還要求全国大会」が東京で開催される予定である。

四島還せ！ 声を出し合って 動く今

令和四年度 北方領土に関する標語・キャッチコピー
〈最優秀賞〉

大阪府大阪市 橋本よしみさん



ミナカ小田原

十一月十八日(金)、北方領土問題をテーマにした作文コンクールの入賞者である、県内の中高校生十四名が参加し、北方領土青少年等現地視察研修代替え事業が開催された。本来、作文コンクール入賞者は、北方領土青少年等現地視察研修と

十一月十八日(金)、北方領土問題をテーマにした作文コンクールの入賞者である、県内の中高校生十四名が参加し、北方領土青少年等現地視察研修代替え事業が開催された。本来、作文コンクール入賞者は、北方領土青少年等現地視察研修と

の危機感が伝えられた。一方、神奈川の中高校生からは、ロシアのウクライナ侵略が返還交渉に与える影響等について発言があったほか、「私たちの世代が問題の理解を深め、伝えていく役割を果たさなければならぬ」と感じた」との声も挙がった。

JR横浜駅 Newdaysビジョン等で 北方領土に関する 県民会議のCMを実施!!

県民会議では、「北方領土返還運動全国強調月間」である二月中、JR横浜駅Newdaysビジョンで、北方領土に関する啓発映像を放映する。一回三十秒のCMが、JR横浜駅Newdaysビジョン六面で流れる予定である。

なお、この他にも、川崎市各区役所の窓口のデジタルサイネージや本厚木駅の電光ビジョン、小田原ミナカ小田原・小田原駅東西自由連絡通路設置のデジタルサイネージなどによる広報を予定している。

編集後記

十一月三日(水)、四十七都道府県民会議の推進委員等がTKP市ヶ谷カンファレンスセンターに一堂に会し、令和四年度(第三十七回)都道府県民会議代表者全国会議が三年ぶりに対面に開催された。本会議は北対協が主催し、北方領土返還要求運動に携わる推進委員等の各都道府県の代表者が参加し、内閣府、外務省担当者による説明、各都道府県民会議の取組紹介等が行われた。

(綾井)